

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

スマートフォンはQRコードから▶  
【お支払い方法】  
当社指定口座へ  
後払い



郵便振替 00950-0-216776  
(株)キングダムビジネス



### 「キリストの生涯をたどる旅」

森祐理さんが記念DVD制作

福音歌手であり、ハンガーゼロ親善大使の森祐理さんがナビゲーターとなってイスラエルを旅するDVD、「イスラエル・イエス・キリストの生涯をたどる旅」(3千500円税別)がモリユリ・ミュージック・ミニストリーズから好評発売中です。

DVDは同ミニストリーズの創立10周年記念作品としてイスラエル政府観光省から映像の提供も得て完成したものです。キリストの誕生から復活まで、森さんがゆかりの場所で解説と聖書のことばと賛美で足跡をたどります。2千年前、キリストとそこに暮らしていた人々の足跡が色濃く残る街並みや石畳、人々の生活なども紹介されています。クリスマスギフトにも最適です。キリスト教書店又はモリユリ・ミュージック・ミニストリーズ(Tel:06-4397-3537) リリースストア (<http://moriyuri.com>) で販売。送料別。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付けいたします。

### 富山国際大学と包括的な提携 学生の国際協力への理解を促進

日本国際飢餓対策機構は、富山国際大学との包括的な連携に関する協定を締結しました。



10月20日、同大学において高木利久学長と当機構清家弘久理事長が出席のもと「協定書の調印式」が行われました。協定期間は3年として、国際協力の理解を促進するために知的・人的・物質的資源を活用して相互に協力を行います。大学とのこのような協定締結は、2019年の東京基督教大学に続き2例目で、これまでも国際協力を希望する学生のための研修キャンプや当機構活動地での海外研修キャンプなどが行われています。

※写真前列中央に清家理事長と高木学長、後列左から二人目に当機構元海外駐在員の高橋ゆかり氏(同大学現代社会学部准教授)

### サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 365号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □(1口1,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFHサポーター)として協力します。 毎月( )円 □(1口500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送ってください。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送ってください。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4910**口

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2020.12 No.365  
ハンガーゼロ・ニュース



## Contents

小西ボリビア駐在員連載⑩(特別編)	P.2
活動報告 2019-2020 年度物資支援	P.3
<b>クリスマス募金スタート!</b>	<b>P.4-5</b>
チャイルドサポーター・大阪女学院中学	P.6

コロナウイルスの脅威が過ぎ去ることを祈り信じて、互いに助け合っていきましょう



農家の支援(インドネシア)

1分間に17人(内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155  
東京(広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782  
東京(東北) 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F  
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132  
愛知 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号  
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216  
沖縄  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに961,128ポイント(円)のご協力(10,471件)がありました。Tポイント募金で検索。  
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

連載〈17〉

特別編②

## ラテンアメリカの人々とともに

ボリビアの新型コロナウイルス感染者（累計）は11月6日時点で14.2万人、回復者11.4万人、死亡者8,781人。人口100万人あたりの感染者は日本の837人に対してボリビアが12,834人、死亡者は日本が14人、ボリビアが792人となっています。（注1）

7月に連日1,200～1,800人の新規感染者がでて医療崩壊が起こった頃と比べると人数が減ってきてはいますが、まだ予断を許さない状況です。特にハンガーゼロ（以下HZ）支援地域のサポートチャイルド、マギーちゃん（16歳）が10月にコロナ感染で亡くなった時、私たちは深い悲しみに襲われました。終日外出禁止令は3月22日から71日間続き、その後も外出規制が続いています。

## 選挙延期処置が悲劇にも発展

またボリビアではコロナとの闘いの他に、政治の権力争いによる国内の混乱がありました。特に9月実施予定だった大統領・国会議員選挙日を、暫定政府がコロナ感染拡大を懸念して1ヵ月半延期した事に対して、前大統領エボ政権を支持する人々が予定通りの選挙実施を要求。ほぼ全国で無期限の道路封鎖を実施しました。この為にコロナ治療などに不可欠だった医療用の酸素を運ぶトラックが通行できず、酸素不足の為にコロナの重症患者をはじめ、産声を上げたばかりの新生児に至るまで、40名の尊い命が失われました。また多くの地域で

## コロナ禍でのもう一つの戦い

ボリビア多民族国  
駐在 小西小百合

救急車や医療従事者の車が襲われて医療妨害が起きました。そして選挙日が合意され、2週間後にやっと道路封鎖が解除されたのです。

このような状況のため支援地に入れなかったため、FHB（注2）では私たちスタッフが支援地の人々を励まし、現状・必要・課題等を知る為に携帯でのインタビューを実施しました。その結果87%の人々が食料の不足状態であることがわかった為、4月から緊急支援を開始。また支援地域の生活困窮家庭に「基本食料品とコロナ感染予防の保健衛生キット（1パック100ボリビアーノス＝約1,560円）」を配布する募金キャンペーン「ボリビア・コン・ビダ#BoliviaCOVIDa（Bolivia with Lifeの意）」を6月から実施しました。HZからも募金を頂き、9月にHZの支援センター2地域333家庭にこれを配布すると共に、新約聖書と聖書を学ぶ冊子などもお渡しすることができて、地域の人々から大変感謝され私もとても嬉しかったです。

結局10月18日に大統領と国会議員選挙が実施され、選挙管理委員会は亡命した前大統領の政党MAS（注3）候補者が52%の票を獲得して当選、国会議員数も過半数を確保したと発表。しかし様々な不正が取りざたされ、ボリビア各地で市民の抗議行動がありました。11月8日に新大統領が就任しました。今尚多くの市民はMASが追随するキューバやベネズエラのような独裁政治にボリビアが変わっていく事への危機感を抱いています。ボリビアの為政者が正しく政治を行う事ができるように、皆様のお祈りを宜しくお願い致します。

注1) 資料: ウィキペディア

注2) 国際飢餓対策機構ボリビア

注3) Movimiento Al Socialismo (社会主義への動き)



## ブルンジ共和国

【支援物資】 スープミックス 1,023 箱 (約123万食)

ブルンジの人たちは、スープミックスをジャガイモ、米または豆、バナナと一緒に調理して食べています。今回の配給により、受益家庭では60～90日分の食事を得ることができました。



【配給日・場所】 2020年6月10～12日にブソニ郡、ブガビラ郡  
【配給方法】 地方自治体のリーダーの協力の下、FHブルンジスタッフ、コミュニティ・リーダー、地域の教会のリーダー、ボランティアグループの手により公開で配給が行われました。

ソーシャルディスタンスを保つため、1人ずつ順番に名前を呼ばれて10袋のスープミックスを受け取りました。

【受益者数】 孤児63人、高齢者279人、介護の必要な人31人、その他飢えと貧困の中にある人854人

【受益者の声】

6人の子どもの持つジョセフ・ビギリンダヴィさん「コロナの中でスープのご支援を頂いたことに感謝しています。これまで見たことのないようなとても栄養価の高い食事を家族に食べさせることができました。子どもたちが健康になると思います。ご支援に感謝致します。」



## シエラレオネ共和国

【支援物資】 医薬品

雨季に発生する病気、マラリア、呼吸器疾患、感染症など発生状況にもよりますが、約6～9ヵ月間医療を提供できます。抗生物質、マラリア治療薬などの医薬品が必要な様々な病気を患っている約8,000人の患者を助けることができます。

【配給日】 2020年5月30日

【配給者・配給方法】 パートナー団体、マーシー&ホープ・インターナショナル (NGO) のディレクターとボランティア

【受益者数】 ユナイテッド・メソジスト教会病院が治療に当



たっているキッシー地区の孤児、高齢者、リベリア難民など約8,000人

【受益者の声】

患者のモモー・サケイマさん「この国のどこにおいても不足しているこのような医療があったから、私は今も生きることができています。そうでなかったら、とっくに命を落としていたでしょう。この病院の運営を可能にしている支援者の皆様にすべての患者を代表して心からの感謝を述べたいです。今後も継続して支援をして下さるようお願いいたします。」



## グアテマラ共和国

【支援物資】 スープミックス 888 箱 (約107万食)、リンゴチップス (12袋入)を96箱、おもちゃ、本、子ども用ブランケット、靴、衣類、歯磨きペースト、文房具など

コロナウイルスの影響で日雇いの仕事などがなくなり、家族の中で1人も働くことができなくなって収入が途絶え、飢えている家庭が非常に多い。



【配給日・場所】 2020年8月13日～24日

貧しい地域にある17の組織 (LOVE グアテマラを含む) や地域の代表者がスープを受け取り、それぞれの地域の人々のために炊き出しを実施。200ケース以上のスープが炊き出しのために LOVE グアテマラの事務所から搬出されました。

【配給方法】 コロナのため家族の代表が容器を持って炊き出し会場に来て家族分を受け取り、家に持ち帰って、子どもたちや親戚などの世話をしている人たちに分けました。

【受益者数】 極貧・飢餓状態にある人々、高齢者、ホームレス子ども2,000人以上、女性1,000人以上、高齢者700人以上、男性800人以上

【炊き出しを実施した LOVE グアテマラのスタッフの声】

「炊き出しに来た人たちは大変感謝しています。子どもの中には4杯もお替りするほどおなかを空かせている子、またビタミン不足で髪の色がオレンジ色になってしまっている子どももいました。1ヵ月も続けてスープを飲めば元の髪色に戻っていくでしょう。」

※支援金額は、前月のハンガーゼロニュース11月号 (年次報告) をご覧ください。



今年の募金はパキスタン、フィリピン、インドネシアで住民主体による地域開発や子どもたちへの教育・保健衛生、栄養のある食物の提供。妊産婦と乳幼児のケア、職業訓練などに用います。



し、診療費用を安く設定しました。  
 昨年8月から、24時間体制で分娩の受け入れを開始、2020年1月から8月までに、8人の子どもが生まれました。1日に来院する患者数は平均約10人(目標は20人)。  
 パキスタンの新生児死亡率(生後28日未満の死亡率)は非常に高いので、クリニックで生まれた子どもたちとその母、家族の支援のために、子どもが1歳半になるまでスタッフが定期的に連絡を取り、状況を確認しています。

# クリスマスに愛を贈ろう

②各家庭が収入向上のための活動を行えるように助ける。  
 ③母子の健康と栄養摂取について、妊婦や授乳期の女性がより知識を得られるようにします。  
**長期目標:** コミュニティ内にファーマーズ・マーケットを設立し、持続可能な農業と生活の形をつくる。今年度はその足掛かりとしてコミュニティの全世帯を対象として、月に1~2回決まった日に農家が直売できる機会を設ける予定。

域隔離政策により2020年は活動中止になりました。規制が解除され次第、支援活動を再開します。住民との話し合いで2021年度中に計画づくりを終わらせることを目指します。  
**教育支援:** 現在30名の高校生、大学生の支援をおこなっていますが、将来的には100名ほどの支援が出来るように、体制作りと支援者の獲得の活動を行っていきます。  
 経済的支援と共に、子どもたちのキャリア形成のため支援により焦点を当て、将来の自立開発の担い手となるようなプログラムを実施します。  
**都市貧困層の家庭再生プログラム:** 21年には新たに都市貧困層の支援を、メトロマニラを中心に開始するための準備を始めます。ここでの活動は、HOLPFIが直接人々に支援するのではなく、都市貧困層を支援している団体に対して問題解決となるプログラムを提供します。このプログラムは、家庭の健全化を目指すもので、初年度は、スタッフの訓練とパートナー団体の選出と関係強化をすすめます。



女性病院のスタッフと病院建物

## 【フィリピン】ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン (HOLPFI) 子どもたちが自立開発の担い手になるように

**地域開発支援:** 引き続き住民主体の地域開発の働きをミンドロ島において進めていきます。  
 東ミンドロ州マイ・アルサビ村では2021年は教育省へ学校用地寄贈の手続きの終了を目指します。これによって本校として学校が機能するようになり、より子どもたちの教育環境が充実する見込みです。  
 公衆衛生の改善の第1ステップとしては、十分な飲料水の確保とトイレの設置を目指します。  
 西ミンドロ州ファグリブアンの支援は、COVID-19による地



アルサビ村・リーダーシップ研修と学校教育支援⑥

## 【パキスタン】女性病院 (WCH) 女性が安心して子どもを産み育てられるように

**ビジョン:** 女性たちが心身ともにより良い生活を送ることができ、ひいてはその子どもたちや家族が幸せになり、地域全体が発展することを目指します。  
**活動:** 産婦人科、小児科のクリニック  
 イスラム社会のパキスタンで生活する女性にとって、子どもを持つこと、特に男子をもうけることは、大きな役割です。妊娠しない、又は子どもがいない女性は、家族から社会から大きなプレッシャーを受け続けています。そのような女性たちが安心して来院できるよう、スタッフのほとんどを女性で構成



**女性のための職業訓練:** 大人のための識字教育を行う一方、読み書きができない女性のために、1年間で刺繍と裁縫を学べるソーイングクラスを運営。1日平均6~7人参加しています。  
 プラスティックバックによる環境問題がパキスタンでも深刻なので、ソーイングセンターではエコバックを販売。地域の女性6人がこの仕事に参加して収入を得ています。

## 【パキスタン】愛の手ベシャワール 少数民族の子どもたちに学べる機会を提供

パートナー団体「愛の手ベシャワール」を通してカイバル・パクトウンクワ州チトラルで寮を運営し、少数民族カラーシャの子どもたちが学校に通えるよう支援します。



## 【インドネシア共和国】FHインドネシア コロナ禍の農家グループに回復力を与える

**実施地域と人数:** メンタワイ諸島シブルット島 100世帯(約400人)  
**プロジェクト名:** 栄養食品バスケット・農業支援プロジェクト  
**妊婦・授乳期の女性ならびに2歳以下の乳幼児が対象**  
**地域の課題:** 辺境の離島であるシブルット島では、栄養価の高い食品は供給量が限られており、入手が容易ではありません。また栄養のある食品についての知識が乏しく、日常的に摂取していないため、子どもの発育阻害の割合が非常に高くなっています。本プロジェクトは、コミュニティ全体でこの問題に取り組み解決することを目指しています。野菜畑や山羊・鶏の飼育場を持っている農家のグループが、栄養価の高い食物の供給力を上げ、収入向上に繋がる活動を行っていきけるように手助けします。  
 同時に、地域の保健センターと協働して、健康的な食習慣のための教育を推進します。  
**目標:** コロナ禍にあるコミュニティの回復力と生活の質の改善を目指す。  
**主な活動:** ①農家グループが栄養価の高い食物を持続的に生産していけるようになるための農業トレーニングの実施。



農業トレーニング(インドネシア・シブルット島)

**募金目標 800万円**  
 ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構「クリスマス募金」と明記  
 ②WEBサイト「ハンガーゼロ」で検索し、公式ホームページに入り、クレジットカードを利用  
 ※WEBサイトからの募金受付は12月から



◀スマホでQRコードをかざすとWEBサイトに



ロングライフタウン 寝屋川公園 フィレンツェの丘

私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。  
 ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。  
 Health & Natural Beauty **ロングライフグループ** **0120-550-294**  
 大阪本社/〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社/〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階  
 ロングライフグループ拠点: 北海道/埼玉/東京/神奈川/千葉/静岡/愛知/大阪/兵庫/京都/大分/沖縄/中国(青島)/韓国/インドネシア(ジャカルタ)  
 ※「協賛広告」を募集しています。ウェブにも掲載。詳しくは大阪事務所まで



大阪女学院中学校

## JOY は世界の誰かの喜びのために行動します

私たち、大阪女学院中学校2年生の有志54人と学年教師8人は、このたびJOYというグループ名で、ウガンダ・ナムトゥンバの9歳のフランク君のチャイルドサポートを始めることにしました。私たちがこの活動を知って、参加させていただくに至った経緯をご報告させていただきます。

私たちがハンガーゼロとチャイルドサポートのことを知ったのは、今年の冬でした。長年この活動を支援してきた私たちの学校の平林先生が、ロングホームルームの時間にお話をしてくださったのです。日本に生活している私たちは、きれいな水がふんだんに使え、毎日食事ができ、学校に通って勉強やクラブ活動をしています。

しかし世界に目を向けると、その当たり前が当たり前ではない子どもたちが大勢いることを、驚きとともに知りました。毎日私たちに関わって下さっている先生からお聞きした、アフリカを訪れて床や壁など学校を造るお手伝いをしたお話や、現地の子どもたちとの交流経験のお話は、一時的感動に終わらず、私たちの心に残り、世界のために何かしたいという種を蒔いてくださいました。

そしてやって来たコロナ禍。私たちの学校も長く休校になりました。学校に行きたいけど行けない…私たちの中で1つの当たり前が崩れました。それは想像以上に辛くて淋

しい体験でした。6月半ばに学校が再開してからは、学校に行けること、友だちに会えること、勉強ができることの喜びを日々感じながら過ごしています。

フランク君を支援するために私たちも成長します

そして再開した学校の礼拝で、またハンガーゼロの活動のお話に触れる機会がありました。去年心に蒔かれた世界のために何かしたい思いと、休校期間中に学校に行けなかった辛い体験が、私たちの中で繋がり、チャイルドサポートをさせていただくこととなりました。JOYのみんなで、毎月のお小遣いの中から100円ずつやりくりして献金にし、フランク君に届けていきます。

支援を始めるにあたり、JOYのみんなで1枚ずつ、写真入りの英語の自己紹介カードを書きました。今後もカードを送ったりしたいので、英語を一生懸命勉強しようと思っています。フランク君のこれからの成長も楽しみです、私たち自身もこの活動を通して世界のことを学んだり考えたりしていきたいです。JOYというグループの名の通り、私たちに与えられた日常に感謝し、世界の誰かの喜びのために、私たち自身も喜びを持って、これからも活動を続けていきます。大阪女学院教諭 中村忍(写真中央)

B組 飯原優実 映像を見て力になりたいと

私がJOYのメンバーになろうと思ったきっかけは、学校でハンガーゼロの映像を見て、世界にはご飯を満足に食べることができず、勉強もできない子がいることを知り、少しでも力になりたいと思いました。1人でも笑顔になれたらいいと思います。

C組 林凜華 世界の貧困を助けたかった

私はチャイルドサポーターになって本当に良かったと思っています。私は世界の貧困を助けたいとずっと思っていました。今回フランク君を自分も関わって助けられると思うとすごく嬉しいです。また、フランク君には立派な大人になってほしいです。

D組 山本輝奈 自分もサポーターになれる!

私たちにとって学校に通うことはあたり前のことで、世界には貧しくて学校に行けない子がいると知りショックでしたが、自分の少しのお金でサポーターになれると知ってJOYに入りました。フランク君が楽しい学校生活を送ってほしいです。

E組 長谷川芽依 支援できるのは素敵なこと

日本からとても遠い国、ウガンダに暮らすフランク君の支援ができるなんて信じられないくらい素敵なことだと思います。ひと月たった100円ですが、フランク君が少しでも幸せになってくれればいいなと願っています。



## コロナで苦しむ農村部の人々を助けるFHルワンダ



農家に支援物資を配るFH

【ムウェンド地区】

ムウェンド地区はルワンダの南部の州ルハンゴ郡にあります。この地区には27,106人が暮らしており、農村部の多くの人が経済的に最も貧しいと位置づけられる人々です。ルワンダも2019年末からのコロナの流行から逃れることができず、2020年3月に最初の患者が発生しました。これによって全国に外出禁止命令が出され、すべての人々は感染拡大防止のために2カ月の間自宅に留まることを求められました。この外出禁止令の規制と収入創出活動の中止は人々の生活に悪影響を与え、特に最も貧しい家庭の上にこの影響が続いています。

栄養不良の危険性のある家族に追加の食料支援

このような状況のもと、FHルワンダは以下の支援を行いました。

外出禁止令の措置によって影響を受けた人々に対して、食料と衛生用品の支援として、いんげん豆1,500kg、トウモロコシの粉2,500kg、石鹼1,000個をルハンゴ郡の行政当局に届けました。

コロナはすべての人々に影響を与えましたが、最も苦しんでいるのは子どもたちと女性、特に妊娠中の女性たちです。FHはこれらの人々への支援として、子どもと妊婦たちの

栄養不良の進行を防ぐために、その危険性のある231家族に食料支援を行いました。さらにすでに栄養不足に陥っている子どもと妊婦には、おかゆの材料である栄養価の高いソマ粉480kgが提供されました。

一方で、貧困家庭にもトウモロコシの粉1,565kgと豆625kgを配布しました。

FHは地域のボランティアと協力をし、地域の人々の命をコロナから守るために、防護用品としてマスク4,800枚と手洗い用石鹼1,134個を支給しました。

又農家への支援

として、小農家285家族にはじょうろと鍬などの農具が手渡されました。(写真⑥)その他の農家1,469家族には、作物の生産量を増やすためにいんげん豆と大豆の種4,407kgが配給されました。

ムタラ及びニャビグ地域においては、水のパイプラインが延長されたことにより、720家族が水を利用できるようになり、健康改善につながりました。



## ハンガーゼロの緊急募金で行われる主な支援内容

- コロナ予防に関する情報伝達の強化
- 登録された100名の子どもたちにコロナ予防のための石鹼、たらい、マスクなどを支給
- 減少した家計収入を改善させるために脆弱な家庭75軒に豚50頭ヤギ25頭を支給
- 作物の生産量を増やし、食料を確保できるように200家族に農作物の種(インゲン豆と大豆)を配布
- 農作物の生産を増やせるように58の貧困家庭に農具(じょうろと鍬)を支給



## JOY 私たちの喜び

A組 伊原拓希 支援によってつながれる感動

今、フランク君は私の大切なお友だちです。こんな広い世界なのに、支援によってつながることができてとても感動しています。フランク君が心から大好きだし、だからこそ、この思いが彼に届いてたくさん幸せな気持ちになってほしいと思います。



## コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記 募金集計: 11月11日現在で約766万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに